第４版はしがき

はじめて法学を学ぶ人にとって，どのようにして学習すればよいかということは，心配であろう。そのような迷いは，多くの人たちが最初にかかえる心配である。しかし，特別の方法があるわけではない。ただ，一般的な方法は，初学者向きの入門書を読むことからはじめるのが定石であるといわれている。

そもそも，法学の学習は，一般的に，無味乾燥なものだといわれている。したがって，忍耐強く取り組んでいくことが重要である。ただ，入門書は，むしろ初学者の身になって，初学者の関心をさそうよう工夫を試みている。

本書においては，私たちの日常生活のなかから，法学の主要な課題を初学者の立場にたって関心をもちうるよう心掛けたことである。あわせて，今日の課題を踏まえるよう，工夫を試みた。その工夫として，私たちの日常の社会生活のなかから，法学の基本に触れる問題を取り上げて，法学を身近な問題として関心をもちうるように配慮した。

人は，出生してから死亡する間に，多くの人が経験しまたは考えなければならない社会生活上の問題に出会うが，本書は，これをテーマとして，また，それを手掛かりとして，法学の基礎的な考え方を学ぶという方法をとった。

本書を手にした読者は，おそらく法学を学ぶうちに，自分の身近な家族，地域社会，職場の一員として，また，国民として，経験するさまざまな法現象に関心をもつようになり，法学への学習意欲をさらに前進させていくことができると思う。その意味で，読者の方々のお役に立つことができれば望外の喜びである。

本書は，最初に公刊されて以来，多くの読者にめぐまれ，「増補版」を出し，さらに続いて「新版」，「第３版」と続き，より現代的な内容にしてきた。

本書が刊行されるまでには，執筆者・編集者の方々に苦労をしていただいた。執筆者には，多忙な本務の間に打合せや意見交換の集りに出席していただ

いた。また，編集事務については，法律文化社の舟木和久氏に苦労をかけ，お世話になった。本書の刊行にご尽力いただいたすべての方々に，この場を借りて，感謝の意を表したい。

2014（平成26）年 6 月吉日

編　者　　中川　　淳